

追悼 「マエストロ 小澤征爾」

プログラム

今年の2月6日に亡くなった“世界のオザワ”こと小澤征爾氏。訃報から約3ヶ月が経ちますが、未だにその業績を称える声はやみません。4月13日には音楽評論家、東条碩夫氏をお招きし、「小澤征爾さんを偲んで」と題した講演会を開催、大好評を博しました。今回は続けて小澤征爾氏を偲ぶライブ名演集をお送りします。

小澤征爾は1935年9月1日、日本人の両親のもと、旧満州の奉天、現在の中国瀋陽で生まれました。歯科医師の父を残して1941年3月に日本へ戻り、長兄の克己からピアノの手ほどきを受け、才能を感じた一家の決意で、ピアノを豊増昇に師事。1951年に成城学園高校へ進学、1955年には桐朋学園短期大学音楽学部へ進学し、指揮法を生涯の師、齋藤秀雄に学びました。卒業後、「音楽武者修行」のため、1959年2月スクーターで単身フランスへ渡り、滞在中にブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。翌1960年バークシャー（タングルウッド）音楽祭でクーセヴィツキー賞を受賞して一躍注目を集めました。シャルル・ミュンシュ、ヘルベルト・フォン・カラヤン、レナード・バーンスタインに師事。1962年NHK交響楽団の指揮者となりますが、楽団からボイコットを受け、たったひとりで指揮台に立つという苦い体験から、日本での活動を諦め渡米、海外に拠点を移しました。いわゆる“N響事件”から両者が和解し演奏会を開いたのは、32年後の1995年でした。1964年シカゴ交響楽団のラヴィニア音楽祭で代役指揮をして成功を収めると、1964年から1968年までトロント交響楽団、1970年から1976年までサンフランシスコ交響楽団、1973年から2002年までは29年という長期に渡り、名門ボストン交響楽団の音楽監督を務めました。一方でウィーン・フィル、ベルリン・フィル、バイエルン放送響、フランス国立管等、ヨーロッパの名門オーケストラとの共演を重ねました。日本では1972年日本フィルの解散後設立された、新日本フィルの発展に貢献。1984年9月、恩師齋藤秀雄の没後10年を偲んで開催されたメモリアル・コンサートが切っ掛けとなって1987年、サイトウ・キネン・オーケストラが誕生、音楽監督として大きな業績を残しました。2002年1月、日本人指揮者として初めてウィーン・フィル・ニューイヤーコンサートを指揮、その年のシーズンからウィーン国立歌劇場の音楽監督に就任、2010年まで務めました。2005年に体調を崩してからは、2010年に見つかった食道癌、腰の手術と、晩年は病との戦いでしたが、音楽に対する情熱は衰えず、2005年にスタートさせた若い音楽家のための講習会「スイス国際音楽アカデミー」には晩年まで活動を続けていました。今日は選りすぐりのライブ音源で小澤征爾氏を偲びたいと思います。 (中川)

サミュエル・バーバー (1910~1983):

ノックスヴィル “1915年の夏” Op.24

バーバラ・ボニー (ソプラノ) / 小澤征爾指揮 サイトウ・キネン・オーケストラ
(1998.9.9 松本市民会館大ホールでのLive)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827):

交響曲第8番ハ長調 Op.93

小澤征爾指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1987.6.28 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

グスタフ・マーラー (1860~1911):

交響曲第8番変ホ長調 “千人の交響曲” から「神秘の合唱～終結部約6分」

小澤征爾指揮 フランス国立管弦楽団 / ロンドン・フィル合唱団 / フランス放送合唱団
バーバラ・ヘンドリクス / テレサ・ツイリス・ガラ / ケネス・リーゲル / ジークムント・ニムスゲルン他
(1979.6.11 パリ、サン・ドニ聖堂でのLive)

*** 休憩 ***

オリヴィエ・メシアン (1908~1983):

異国の鳥たち

内田光子 (ピアノ) / 小澤征爾指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1984.6.15 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

ヨハネス・ブラームス (1833~1897):

交響曲第2番ニ長調 Op.73

小澤征爾指揮 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(2000.3.12 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

曲目解説

バーバー：ノックスヴィル“1915年の夏”作品24

アメリカ現代の作曲家、バーバーは、1910年3月9日、ペンシルベニア州ウエストチェスターで生まれました。カーティス音楽院でピアノと声楽を専攻、作曲をロザリオ・スカレロ、指揮をフリッツ・ライナーに学びました。1935年に奨学金を得て2年間イタリアに留学、この間の1937年に書かれた弦楽四重奏曲口短調のアダージョ楽章は、弦楽5部のオーケストラ用に編曲され、名曲「弦楽のためのアダージョ」として親しまれています。ノックスヴィル“1915年の夏”は1947年、ソプラノ歌手エレン・ステイバーの依頼によって作曲され、翌1948年、ステイバーの独唱とクーセヴィツキー指揮ボストン交響楽団によって初演されました。劇作家ジェームズ・エイジの散文詩「ある家族の死」に基づいていますが、「夕刻になって人々は家のポーチに座り、ロッキングチェアを緩やかに揺らしながら静かに語り、通りを小鳥が木立に飛んでいくのを眺めるのだ…」と、小都市ノックスヴィルでの子供時代の幸福な思い出を歌い上げた名曲です。バーバーはヨーロッパの伝統的書法を巧みに吸収し、保守的な中にもアメリカの現代生活を反映させた作品で存在感を示しています。

ベートーヴェン：交響曲第8番ヘ長調作品93

ベートーヴェンの交響曲は、1808年12月に第5番と第6番が同時に演奏されて以来、ウィーンでは約5年間新しい交響曲を聞くことはありませんでした。待望の第7番は1811年に着手し、1812年5月に完成、1813年12月8日に初演されて大成功を収めました。続く第8番も1812年夏ボヘミアの温泉保養地テプリッツで着手し、1812年10月に完成、1814年2月27日にベートーヴェン自身の指揮でウィーンで初演されましたが、第7番のような評価は得られませんでした。メトロノームの音を真似たといわれる洒落た第2楽章、長いコーダを持ちながら非常にコンパクトにまとめた第4楽章など、全9曲の中では第1番と並んで最も短いにもかかわらず、巧みな技法が随所にみられ、良いところだけを凝縮したような交響曲、それが第8番と言っても良いかも知れません。「この曲が聴衆に受け入れられないのは、この曲があまりに優れているからだ」と初演時に語ったとされている言葉からも分かるように、この曲はベートーヴェンが最も気に入っていた交響曲だったようで、唯一誰にも献呈されなかった交響曲でもありました。

第1楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ・エ・コン・プリオ 第2楽章 アレグレット・スケルツァンド
第3楽章 テンポ・ディ・メヌエット 第4楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ

メシアン：異国の鳥たち

現代フランス作曲界を代表する巨匠、メシアンは1908年12月10日、フランス南東部に位置するアヴィニオンで生まれました。1919年11歳の時にパリ音楽院に入学、モーリス・エマニュエル、マルセル・デュプレ、ポール・デュカスなどに師事し、音楽理論、オルガン、作曲を約12年間学びました。メシアンはカトリック信者でしたが、それは音楽にも反映され、信仰に基づく作品を数多く残しました。第二次世界大戦が始まり召集を受けた後、1940年にドイツ軍の捕虜となり、この収容所内で作曲、初演された名作「世の終わりのための四重奏曲」もそのひとつです。また1930年頃からメシアンは鳥の音のリズム、インド、ギリシャのリズムの研究を始め、鳥に関しては、その後本格的に鳥類学を学び、鳥を題材にした作品も数多く作曲しています。「異国の鳥たち」はピエール・ブーレーズ主宰のドメヌ・ミュージカルの委嘱で1955年から1956年にかけて作曲され、ルドルフ・アルベール指揮のドメヌ・ミュージカル、イヴォンヌ・ロリオのピアノで1956年3月にパリで初演されました。広範囲に及びアジア、南北アメリカに分布する47種類の鳥の声を素材に、インド、ギリシャの19のリズムを使用し、13の部分からなるピアノと管弦楽のための協奏曲です。斬新で刺激的なメシアン中期の傑作です。

ブラームス：交響曲第2番ニ長調作品73

ドイツ、ハンブルク生まれの大作曲家ブラームスは、生涯4曲の交響曲を残しました。1853年、20歳のブラームスはシューマンによって世に紹介され、55年4月にシューマンの「マンフレッド序曲」を聴いて感激し、交響曲を書こうと決意、55年夏に最初の交響曲に着手し第1楽章を作曲しますが、第2楽章、第3楽章のスケッチは行なわれたもののしばらく間があり、本格的に没頭したのは1874年頃からでした。こうして21年の時を経て1876年にようやく完成したのが交響曲第1番です。この交響曲は成功を収め、自信を持ったブラームスは翌年1877年6月にオーストリア南部のケルンテン州、ヴェルター湖畔のペルチャツハで交響曲第2番の作曲に着手し、わずか3ヶ月後の9月に完成、1877年12月30日にハンス・リヒター指揮ウィーン・フィルによってウィーンで初演され、大成功を収めました。アルプスの山々に囲まれた風光明媚な景観と清々しい気候の中で作曲されたことを反映してか、第2番は第1番とは対照的に、温和で明るく、のびのびとした曲想に包まれたブラームスの名曲のひとつです。

第1楽章 アレグロ・ノン・トロツポ 第2楽章 アダージョ・ノン・トロツポ
第3楽章 アレグレット・グラチオーソ 第4楽章 アレグロ・コン・スピリート